

2013 年 4 月 1 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 原嶋 洋平

モンゴル国 ウランバートル市都市交通建設事業
(協力準備調査(有償 PPP))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2013 年 2 月 25 日(月) 14:00～17:16
- ・場所：JICA 本部 (会議室：1 階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、佐藤委員、原嶋委員、米田委員
- ・議題：モンゴル国 ウランバートル市都市交通建設事業準備調査に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：モンゴル国 ウランバートル市都市交通建設事業準備調査(PPP インフラ事業)環境社会配慮助言委員会ワーキンググループ資料

全体会合(第 35 回委員会)

- ・日時：2013 年 4 月 1 日(月) 14:30～17:52
- ・場所：JICA 本部(会議室：229 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 本調査では、車両基地の建設については候補地の選定にとどまる。車両基地の建設に伴う環境社会影響については、今後の調査¹で、メトロ建設による影響に含めて、予測・評価を行うこと。候補地ごとの住民移転の規模を把握し、比較提示すること。
2. メトロの供用開始に伴う電力消費の増加を考慮して、地域の電力需要を満たす方策について確認し、整理すること。
3. トウール川の流量について、季節変動を考慮した調査計画を追記すること。

代替案の検討

4. 環境社会配慮助言委員会ワーキンググループ資料、表 8.2.2 の「鉄道システムの比較」において、システムの特性とメトロ構造、地域特性等を整理して比較すること。
5. 環境社会配慮助言委員会ワーキンググループ資料、表 8.2.2 の「鉄道システムの比較」において、環境カテゴリーのクライテリアのうち、「斬新性」の意味を明らかにし、具体的に記述すること。
6. 環境社会配慮助言委員会ワーキンググループ資料、表 8.3.1 の「メトロ構造の代替案比較」において、建設コストを考慮すること。

スコーピングマトリックス

7. 環境社会配慮助言委員会ワーキンググループ資料、表 9.4.1 の「スコーピング案」において、地下鉄部分の建設による建設残土（掘り出した土砂）の処分方法について記述すること。
8. 環境社会配慮助言委員会ワーキンググループ資料、表 9.4.1 の「スコーピング案」において、工事中及び供用開始後、大量の地下水汲み上げ等により、地盤沈下が生じるおそれがある。現時点での状況を把握すること。
9. 環境社会配慮助言委員会ワーキンググループ資料、表 9.4.1 の「スコーピング案」において、地下水脈の安全確保の点から、水象の項目について、工事中及び供用開始後における評価を見直すこと。また、今後、ボーリング調査によって、地下水脈の事前調査を行うこと。
10. 供用開始後の安全対策として、メトロについての維持管理能力の養成の必要性について考慮すること。
11. モンゴル国における地下空間の利用に関する法整備に係る検討状況を確認すること。
12. メトロの運賃設定にあたっては、現地住民の生活レベルを斟酌すること。
13. 住民移転及び土地収用に対する補償政策について、住民移転計画の中でモンゴル国と JICA ガイドラインとのギャップを明示し、これを埋める対策を具体的に記述するよう、今後の住民移転計画作成で TOR 案に記述すること。
14. トロリーバス等の数の増減に伴う雇用への影響について、今後の調査で被用者の生活

¹ 協力準備調査 (PPP インフラ事業) スキームでは、環境社会配慮調査が案件形成の初期段階で部分的にのみ行われ、別途協力準備調査等補完調査の実施を前提とした調査計画となっている場合がある。その場合、同調査に加えて補完調査が完了した段階で、JICA ガイドラインで求められる手続きが全て満たされる調査計画となっている。「今後の調査」とは、本調査終了後に実施される前提の協力準備調査等補完調査を指す。住民移転計画と EIA 報告書の作成支援を含む。

形態及び収入源などを含めた基礎的な調査を行うよう、今後の EIA 調査で TOR 案に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

15. これまでの 2 回のステークホルダー会議の参加者は、環境 NGO、有識者、民間等となっており、その発言内容から見ても、直接的な被影響住民の参加が乏しいように感じられる。今後のステークホルダー会議では、被影響住民の意見を取りいれられるように、開催の方法も検討の上、対策を講じること。

以 上